

7月17日(日)



1パック

980(税込)円

イカ
カ
丼

甘みたっぷりなイカとプチプチ数の子が入った

先週の広告、鰻、いさぎの握り寿司を推しにしていたのですが、いさぎが入荷するかドキドキ。広告は、日々の入荷状況で、ギリギリで決まります。ですので、コメントも急です。

中々皆さんで回せません。急すぎて申し訳ない…。

今回の広告は、プチプチ数の子、甘味たっぷり剣先イカを使用したイカ丼です。剣先イカは、夏にかけて旬であまーい。暑い夏に食べてもあっさり！食欲をそそります。

プチプチは、数の子を入れており、イカとの絡みが抜群。大葉、レモンを少し絞って食べてください。夏には最高です。お好みで梅肉を入れても美味しそー。考えるだけでよだれが(笑)。

価格は980円税込となっております。暑い夏をさっぱりして乗り切りましょう。

西田鮮魚店 副店長 越道裕子



西田鮮魚店

☎72-5246

専用番号 ☎090-7125-5489 〈御用聞き便 (旧庄原市内はご自宅に配達)〉

『今年も色鉛筆とクレヨンアートアニメイラスト大募集』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史

去年大好評だった『色鉛筆アート アニメイラスト大募集』を今年もやります。

去年よりさらにパワーアップさせたい。ということで未来会議で、あれこれ協議、いくつか変更しました。

① ちっちゃい子のためにクレヨンを使ってもいいことにしよう

去年のワークシヨップで知ったことですが、色鉛筆アートのポイントの一つは筆圧と重ね塗り。力を入れて描くことで色鉛筆に含まれる油分が押し出されて色に艶が出るようなのです。私もワークシヨップの後、家でやってみて違いがわかりました。

でも、ちっちゃい子たちにとつては、それはなかなか難しいこと。もしかして、色鉛筆で描くこと自体、難しいかもしれない。クレヨンなら、その点、やさしいかもしれないということ。クレヨンもOKにしようということに。

では、大人はどうするか。いいじゃないか。楽しく描いていただけるならそれで。文科省が関わっているわけでもなしというわけで、大人の方のクレヨンもOKです。絵心のない私にはわかりませんが、クレヨンはクレヨンでまた、別の風合いが出てくるかもしれませんね。

去年の大賞を受賞された柳生さんは、この筆圧の強さと同じ時に、重ね塗りの回数が多さが、群を抜く作品となって結実したのでしよう。少なくとも3回、多いところは7回くらい塗ったと表彰式のとき語られていました。

② テーマを決めよう

去年は、アニメならなんでもOKとしました。それで、あれだけ見ごたえのあるものが揃ったのなら、今年は、もう一段、ハードルを上げよう。とはいっても、気軽に楽しく描けることが魅力の『アニメイラスト』。大それたことじゃなくて、ちょっとしたアイデアが、作品をおもしろく、魅力的なものにするんじゃないか。もちろんキャラクターは自由。因みに去年の入選作は大賞の『ドラゴンボールZ』に始まって、『鬼滅の刃』と『千と千尋の神隠し』が2点、以下『呪術廻船』『この世界の片隅に』『クレヨンしんちゃん』『怪傑ゾロリ』『どらえもん』『ポケモン』。中に、『アトム・ナルト・鬼滅』を並べた作品もありました。これは、ユニーク賞でした。私が、聞いたこともなかった『転生したらスライムだった件』という作品もありました。全体にジブリが多かったような印象があります。

会議の中で出てきたテーマが『キャンプ』。それこそ、キャンプを楽しむ竈門炭治郎と彌豆子でもいいし、ウルトラマンの画面の片隅に小さくテントを描くくらいでも、なんかイラストに季節感が出て楽しいんじゃないかなと。左下のイラストは、メガネハウスタケダの横山さんに描いてもらったものですが、そこにカブトムシがいるだけで、キャンプのイメージが湧き、絵に動きが出て来ます。(絵心のない私が偉そうなことを言ってますみません)。それがいい、それがいい、と私は大乗り気。

ところが、ストップがかかりました。「それじゃあ気楽に楽しんで描けなくなるよ。」声の主は、この大募集の主催者の『文具のヨシカワ』の吉本さん。彼女が、応募してくださった皆さんと直接お話しをし、イラストを受け取ってくれる、お客様にいちばん近い人。商売の原則は「お客さまに聞け」。その人の意見を聞かないわけにはいきません。「そうかあ、なるほど。よし、テーマをもう少し広げよう。」と私。『夏』にしよう『夏』。

これなら、キャンプも入るし、いろんな表現ができる。繰り返しますが、絵心のない私です。偉そうに表現なんて

言葉を使える身ではありません。

中学3年生の時の美術の時間。粘土細工の授業。周りのみんながブロンズ像のようなものを作っている時、一人、墓石を作って(そこら辺にある普通の墓石です。)佐々木情子先生に叱られました。ある時は、写生の時間、画用紙いっぱいネズミ色を塗り、黒の線を引き、ブロック塀ですと提出したら、あきれられました。本人は大まじめなのです。

そんな私が言うのもなんですが、テーマはあつた方が絶対楽しい、いや、たぶん楽しいと思います。大がかりでも、ちょこつとでもいいです。どこかに夏を入れ込んでいただければ……。

③ 賞をたくさん設けよう

これは、私の思いから。映画のアカデミー賞の最高の賞は、たぶん作品賞。しかし、他にもたくさん賞があります。脚本賞、撮影賞、美術賞、作曲賞、衣裳デザイン賞などなど。

去年は『文具のヨシカワ大賞』として、審査委員長の三柵先生の圧倒的な評価で『ドラゴンボールZ』を描いた柳生侑久さんが受賞されました。アカデミー賞でいえばさしずめ作品賞でしょう。表現力とか、技術力とか構成力とか卓抜していました(三柵先生の評です)。

でも、それ以外にも、面白い、ユニーク、美しい、やさしい、元気、せつない、楽しい、等々あるでしょう。『へたうま賞』なんかもいいですね。絵はともかく添えられた言葉が面白い、『おもしろコピー賞』とか。

去年、たくさんのイラストを見ていて、心に残るものがたくさんありました。その結果、当初は無かった賞を設けました。最後は、審査員特別賞まで作り、当初6つだった賞が、14に増えました。今年はずっと増やしたいと思えます。賞の名は、絵を見て、その絵にふさわしい名前にしましょう。遊び心もふんだんに取り入れて……。

最後にひとつ。柳生さんがいては大賞が狙えない。なんとかならないものか。という声が届いています。確かに。今年、審査員にまわってもらおうか。とはいえ、柳生さんの作品も見たい。模範作として描いてもらおうか。今から交渉してみます

※募集開始は7月23日から。用紙は文具のヨシカワにて、5枚100円で販売させていただきます。詳細は来週のチラシをご覧ください。



『SPY×FAMILY』のアーニヤ

by 横山 昭和